

[成果情報名]酒造好適米品種「吟のさと」の栽培特性

[要約]酒造好適米品種「吟のさと」は、「山田錦」と比較して、熟期は同程度でやや多収であり、稈長が25 cm程度短く倒伏に強く、心白発現率が高い。

[キーワード]酒造好適米、吟のさと、山田錦

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・作物研究室

[連絡先]（代表）0957-26-3330

[区分]農産

[分類]普及

[作成年度]2022 年度

[背景・ねらい]

水稻認定品種「山田錦」は、大粒で、心白の発生が良好であり、酒造好適性が優れるものの、極長稈で倒伏しやすく、穂発芽もしやすいため、安定栽培が難しい。一方、実需者からの要望により県内一部地域において九州沖縄農業研究センターで育成された「吟のさと」が試作され始めているが、その栽培特性は明らかではない。そこで、長崎県における「吟のさと」の栽培特性を解明する。

[成果の内容・特徴]

「吟のさと（西海酒 255 号）」（山田錦/西海 222 号：九州沖縄農業研究センター育成）は「山田錦」と比較して、次のような特性を有する。

1. 出穂期は同等で、成熟期は1日遅い、“中生の晩”である（表1）。
2. 稈長は約25cm短く、稈は太く、耐倒伏性は強い。また、草姿は良く、脱粒はややし難い（表1、表2）。
3. 穂数は少なく、穂長は同等で一穂粒数は多い。草型は“偏穂重型”である（表1）。
4. 千粒重、登熟歩合は同等だが、m²当たり粒数が多く、やや多収である（表1）。
5. 粒厚はやや薄いだが、粒の白濁割合が50%以上である心白発現率が高く、酒米としての玄米外観品質は良好である（表1、表3、写真1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本情報は農林技術開発センター内水田（灰色低地土）で得られた成果である。
2. いもち病抵抗性は「山田錦」と同等の“やや弱”（育成地）なので防除を徹底する。
3. ここでは栽培特性のみの評価であり、酒造会社による酒造試験が必要である。

<耕種概要>

移植日 2021年：6/16、2022年：6/15、3本/株手植え、栽植密度30cm×15cm、窒素施肥量（kg/a）：基肥0.5+追肥0.2+穂肥0.3（出穂約10日前）

[具体的データ]

表 1 栽培特性

品種	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)	一穂粒数 (粒/穂)	m ² 粒数 (×100粒/m ²)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	精玄米重 (kg/a)	収量比 (%)	倒伏程度 (0~5)	心白 発現率 (%)
吟のさと	8/24	10/6	85.0	20.9	11.8	97.6	261	26.4	79.6	47.4	107	1.4	51.8
山田錦(標)	8/24	10/5	110.5	20.8	14.6	71.6	230	27.0	81.3	44.4	100	4.0	26.0

注) センター内奨励品種決定調査圃場での 2021 年~2022 年の 2 か年の平均値。一穂粒数、m²粒数、登熟歩合は 2022 年の値。玄米重は 1.8 mm 以上。倒伏程度：0(無)~5(甚)の 6 段階評価(圃場観察) 心白発現率は粒の 50%以上が白濁しているもの。

表 2 その他の特性

品種	草姿	稈の細太	稈の剛柔	脱粒性
吟のさと	良	やや太	中	中
山田錦(標)	やや不良	やや細	やや柔	やや易

表 3 粒厚分布

品種	重量比 (%)						
	- 1.7mm	1.7 - 1.8mm	1.8 - 1.9mm	1.9-2.0mm	2.0-2.1mm	2.1-2.2mm	2.2mm -
吟のさと	3.6	3.1	7.7	25.3	48.6	10.3	1.4
山田錦(標)	2.9	2.6	5.7	15.6	42.0	25.2	6.0

注) 2022 年の値



写真 1 玄米 (左「山田錦」、右「吟のさと」)

[その他]

研究課題名：稲・麦・大豆奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：2021~2022 年度

研究担当者：高柳善成